

平成31年2月4日

医療保健部ライフイノベーション課

平成30年度第2回みえライフイノベーション総合特区推進本部会議事項書

日 時：平成31年2月4日（月）10:00～10:15

場 所：プレゼンテーションルーム

1 平成30年度みえライフイノベーション総合特区計画の取組状況について

【添付資料】

- 資料1 平成30年度みえライフイノベーション総合特区計画の取組状況
- 資料2 みえメディカルバレー構想次期実施計画の策定について

平成 30 年度みえライフイノベーション総合特区計画の取組状況

1 「みえライフイノベーション総合特区」の平成 29 年度評価結果について

内閣府が指定する総合特別区域の評価結果（平成 29 年度）が、内閣府ホームページにて公表（平成 30 年 12 月 10 日）され、当特区の評価結果は「3.9」（満点は 5）、ライフイノベーション分野の地域活性化総合特区 11 地域中 3 位（平成 28 年度は 12 地域中 4 位）となりました。

(1) 評価結果の内訳

総合評価：「3.9」（H28 年度 3.8）

【内訳】

- ①目標に向けた取組の進捗に関する評価：4.5（H28 年度 4.0）
- ②支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価：2.9（H28 年度 3.6）
- ③取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価：4.0（H28 年度 3.8）

(2) 主な専門家所見

- ・全体として進捗状況は良好と評価する。県と三重大学が中核となって意欲的な取組が行われており、企業参入や製品開発、雇用創出に成果を上げていることは評価できる。
- ・今後、統合型医療情報データベースの活用などで新たな進展を期待する。また、ヘルスケア分野の製品・サービスの創出に伴う新市場開拓に、統合型医療情報データベースがどの程度貢献しているのかをより明確に把握することが望まれる。

(3) 県の分析

前年度より評価が上がった要因は、総合特区評価指標として設定した 4 項目（「統合型医療情報データベースの活用」「ヘルスケア分野の製品・サービスの増加」「ヘルスケア産業の振興」「ヘルスケア分野企業（第 2 創業含む）及び研究機関の立地件数」）について、全ての数値目標等を達成するなど、取組が順調に前進したことが評価されたものと考えています。

2 平成 30 年度の取組状況について

(1) 統合型医療情報データベース（「三重大医療情報 DB」）

- ・事業主体である三重大学医学部附属病院を中心とした 9 医療機関において、目標とする 30 万人分を超える患者医療情報の収集（9 月 4 日時点 37.3 万人分）が行われるとともに、その利活用に向けたセミナーの開催等の取組を行いました。
- ・三重大学医学部附属病院と製薬企業等との共同研究締結に向けた支援や他地域等の取組との連携可能性の検討を進めています。

(2) みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）の主な取組

① MieLIP センtral（三重大学）

三重大医療情報 DB 事業による医療情報の収集を行うとともに、その利活用の検討、国内・海外ネットワーク構築の支援などに取り組んでいます。

② MieLIP 鈴鹿（鈴鹿医療科学大学）

社会連携研究センターを中心に東洋医学研究所や各学部において、医薬品等の研究開発等を行っています。

③ MieLIP 津（三重県工業研究所）

みえ産学官技術連携研究会の各検討会において、ニーズ収集や試作の支援に取り組んでいます。

④ MieLIP 伊賀（三重大学伊賀研究拠点・伊賀市立上野総合市民病院）

三重大学伊賀研究拠点では、伊賀地域の文化・薬草などを利用した郷土菓子の改良、新感触菓子の開発等の支援に取り組んでいます。

伊賀市立上野総合市民病院では、森永乳業（株）との共同によるがん患者を対象とした食品の臨床試験に取り組んでいます。

⑤ MieLIP 多気（多気町）

アクアイグニス多気の開業に向けた産学官の支援会議を開催するとともに、本草学の活用等の支援に取り組んでいます。

⑥ MieLIP 鳥羽（鳥羽市）

「鳥羽の海藻」が持つ様々な魅力を活用していくことを目的として、多分野連携（水産、観光、スポーツ、芸術、美容等）による、「鳥羽・海藻文化革命」事業の支援に取り組んでいます。

⑦ MieLIP 尾鷲（尾鷲市）

ヘルスツーリズムの専門家のアドバイスを受けながら、「熊野古道健康ウォーキングツアー」などの健康増進に関するプログラムの研究開発の支援に取り組んでいます。

(3) 総合特区支援利子補給金制度の活用状況

現在、活用する事業者等はありませんが、引き続き金融機関や事業者等への制度周知を図っていきます。

(4) 規制緩和

現在、規制緩和の提案を必要とする案件はありませんが、事業者等への支援の中で、必要な規制緩和を検討していきます。

(5) 特区推進に向けた県の取組

① 情報発信

- ・“未病”をテーマとする製品・サービスの展示会「ME-BYO Japan 2018」（平成30年10月10日～12日・パシフィコ横浜、主催：ME-BYO サミット神奈川実行委員会）に出展し、当特区の取組をPRしました。
- ・当特区の取組を積極的に情報発信するため、戦略的営業活動として、企業等への訪問時に特区の取組や企業の活用例等を説明するとともに、成果事例等をホームページ及びメールマガジンで随時発信しています（平成30年12月末現在70回）。

② 企業訪問等

- ・県内外の企業・大学等への継続的な訪問や県内医療・福祉現場等との意見交換の実施により、県外企業による県内医療・福祉現場等での実証検討や、県内外の大学等と県内企業との連携検討につなげています。（平成30年12月末までの企業・大学等訪問：首都圏中心に31件）

③ 海外連携

- ・タイ王国ソムキット副首相が来県され、タイ投資委員会（BOI）と三重県との連携に関する覚書（MOU）の改定が行われました。（平成30年7月）

④ 医療・福祉機器等の製品化促進

- ・広域連携による医療・福祉機器産業の活性化を目指す広島県、岐阜県等と協力し、医療機器の製造販売業者とものづくり企業とのマッチングを目的とした「医療機器技術マッチングサイト交流セミナー」（平成 30 年 11 月 20 日・東京都、主催：日本医療機器テクノロジー協会）への県内企業の出展を支援したところ、今後の取引等につながる可能性のある案件が 15 件ありました。今後は、関係機関と連携しながら引き続き、製品化に向けた支援を行っていきます。（県内出展企業 5 社）
- ・医療・福祉現場と県内企業のマッチング機会を創出するため、医療用医薬品・医療機器卸売業者（(株)スズケン）の顧客を対象に開催された「スズケンメディカルフェア 2018 in 三重」（平成 30 年 12 月 2 日・四日市市）への県内企業の出展を支援したところ、当日は来場者と企業との活発な意見交換が行われました。今後は、主催者との情報共有等により、医療・福祉現場と企業とのマッチングに繋がるよう支援していきます。（出展企業 5 社）

⑤ 認知症ケア製品等の開発・普及加速化

- ・認知症介護者の研修会に合わせて製品展示会を開催（平成 30 年 11 月 13 日、平成 31 年 1 月 16 日）し、販路開拓を支援するとともに、参加者全 79 名を対象にアンケート調査やヒアリングを行い、製品等の改良や新規開発にかかるニーズ収集を行いました。
- ・認知症ケアに必要な製品・サービスの創出をめざし、認知症の人やその家族、医療・介護関係者、企業等を対象としたワークショップを開催（平成 31 年 1 月 7 日、1 月 30 日）し、具体的な製品等開発企画を創出します。（6 件）

3 特区推進に向けた県の平成 31 年度の実行方針

(1) 医療・福祉機器、医薬品、化粧品、機能性を有する食品、薬用植物を活用した商品、健康管理や生活支援サービス等さまざまなヘルスケア分野の製品・サービスを創出するため、医療・福祉現場等のニーズと県内ものづくり企業の持つ技術等とのマッチングや、国内外の事業者間のマッチングに取り組みます。また、認知症ケア製品等を本県から創出するため、企業、県内大学等と連携し、開発につなげるためのニーズ収集や普及等の促進に取り組みます。

(2) ヘルスケア分野の製品・サービスの開発に関心を持つ企業等による M i e L I P の活用を促進するため、引き続き企業訪問等の場を活用し、総合特区計画に基づく取組の周知に努めるとともに、企業等の製品開発活動に必要なコーディネートを行います。また、三重大医療情報 D B の活用を促進するため、三重大学医学部附属病院と製薬企業等との共同研究締結に向けた支援や他地域等の取組との連携可能性の検討等を行います。

4 総合特区制度を活用したみえメディカルバレー構想の推進

産学官民で構成する「みえメディカルバレー推進代表者会議」（以下「代表者会議」）において策定され、総合特区制度の活用により取組の加速をめざす「みえメディカルバレー構想実施計画」については、現在の第 4 期計画が平成 31 年度末に計画期間が終了することから、平成 30 年 12 月 17 日開催の代表者会議において、実施期間を平成 32 年度から 35 年度とする次期実施計画の策定が決定されました。

次期実施計画策定にあたっては、みえ産業振興ビジョンで示された社会経済情勢の変化等をふまえるとともに、県内企業 1,000 社を対象とするアンケート調査等を実施します。

平成29年度総合特別区域評価結果一覧

(ライフイノベーション分野 抜粋)

分野	特 区 名	実施主体	総合評価
ライフ・イノベーション	ふじのくに先端医療総合特区	静岡県	4.2
	先導的な地域医療の活性化（ライフイノベーション）総合特区	徳島県	3.9
	みえライフイノベーション総合特区	三重県	3.9
	柏の葉キャンパス「公民学連携による自律した都市経営」特区	柏市	3.8
	さがみロボット産業特区	神奈川県	3.8
	東九州メディカルバレー構想特区	大分県、宮崎県	3.6
	とやま地域共生型福祉推進特区	富山県	3.6
	かがわ医療福祉総合特区	香川県	3.6
	岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区	岡山市	3.4
	群馬がん治療技術地域活性化総合特区	群馬県	3.1
	国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区	大阪府、泉佐野市	3.1

・総合評価は、「目標に向けた取組の進捗に関する評価」、「支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価」及び「取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価」を、それぞれ1：1：2の比率で算出。

・評価点数は5.0点が満点。

みえメディカルバレー構想次期実施計画の策定について

みえメディカルバレー構想第4期実施計画の実施期間が平成31年度末で満了することから、次期実施計画（平成32年度から35年度）の策定に着手します。

策定にあたっては、みえ産業振興ビジョンで示された社会経済情勢の変化等をふまえ、みえメディカルバレー企画推進会議及びみえメディカルバレー推進代表者会議において意見を求めつつ、適宜、県内企業へのアンケート、大学等への調査等を実施します。

策定スケジュールとしては下表のとおりで、平成31年度3月の代表者会議において最終案を上程します。

なお、医療保健子ども福祉病院常任委員会へは、平成31年度中に策定状況を報告します。

次期実施計画の策定スケジュール

	H30 年度		H31 年度
次期計画策定提案	<input type="checkbox"/> 8/9	<input type="radio"/> 12/17	
次期計画（構成案）		<input type="radio"/> 12/17	
県内企業アンケート調査	← → 1/8～1/31		
大学等調査			← - →
次期計画（素案）	<input type="checkbox"/> 2/12	<input type="radio"/> 3/6	
次期計画（中間案）			<input type="checkbox"/> <input type="radio"/> 8月 9月
次期計画（最終案）			<input type="checkbox"/> <input type="radio"/> 2月 3月

: みえメディカルバレー企画推進会議

: みえメディカルバレー推進代表者会議

* みえメディカルバレー企画推進会議

みえメディカルバレー構想の企画、進捗管理、評価等を協議。

県内大学・高専関係者、薬事関係企業等で構成。

* みえメディカルバレー推進代表者会議

みえメディカルバレー構想の基本方針等を協議。

県内7大学3高専の長、県医師会長、県薬事工業会長、行政等で構成。

